

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2014・5 vol.452

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉



矢巾キャンパスに完成した新弓道場「^{しょうせいかん}彰誠館」での道場開き
〈写真撮影：写真部 廣瀬仁樹さん（医学部5年）4月26日（土）関連記事：P7〉

おもな内容

- 平成26年度事業計画
- 連載 当院認定看護師の紹介 No.11
- トピックス 平成26年度入学式が行われました
- 表彰の榮譽 三浦 頌太 診療放射線技師が日本放射技術学会で技術新人賞を受賞しました
- フリーページ すこやかスポット歯学講座 No.21 「予防歯科・口腔ケア外来について」
口腔医学講座予防歯科学分野 准教授 稲葉 大輔

学校法人岩手医科大学 平成26年度 事業計画

1. 背景と方針

本学は明治30年、当時の岩手県の医療の貧困を憂いた三田俊次郎が、私財を投じて開設した私立岩手病院に併設した医学講習所をその淵源としている。爾来117年、本学は創立者の高邁な志を連綿と受け継ぎ、多くの有為な人材を輩出、地域医療の中核を担い、県民の福祉の向上に大きく貢献してきた。

この間、本学は県都盛岡市の中心、内丸にキャンパスを構えてきたが、最新の生命科学に対応した教育・研究・医療を行うには狭隘となったため、大学及び附属病院の総合移転整備計画を策定、平成19年に広大な矢巾キャンパスを開設、薬学部を新設した。更に、平成23年には医学部、歯学部を移転、わが国で初めて医・歯・薬の医療系三学部を同一キャンパスに有する医療系総合大学に生まれ変わった。

しかし、その直後に発生した東日本大震災津波により岩手県は甚大な被害を蒙り、多くの貴い生命と財産が奪われた。本学は発災直後から多岐に亘る医療支援活動を行ってきたが、かねてから医師不足が深刻であった被災地の医療の復興再生は容易でない。岩手県の地域医療の安定充実を使命とする本学は、今後も長期的に支援を継続するとともに、医療資源を有効に活用し、高度で良質な医療を広大な県土の全域で容易に提供可能とするため、遠隔医療を活用した過疎地医療の新モデルの構築を目指す。更に、大災害の経験を踏まえ設置した災害時地域医療支援教育センターでは、災害時医療体制モデルの確立、災害医療教育による即戦力となる人材の育成、行政・大学・医療機関の有機的な連携システムを構築する。

本学は医療系総合大学の特徴を活かし、学部及び学系間の垣根を越えた教育・研究を実践、先駆的モデルとして注目されている。医療の高度専門化が進む中、多面的かつ全人的視野に立つ人材、建学の精神に基づく人間性豊かな「誠の総合医療人」を育成することは大きな意義がある。また、医歯薬総合研究所を中心に行われている先進的かつ学際的な研究は国際的な評価も高く、これを一層深化させ、新時代の医療の創造を目指す。

最終段階を迎えた総合移転整備事業は、新附属病

院の実施設計に着手し、心臓部であるエネルギーセンターを先行整備する。また、附属病院移転後の内丸地区には、高機能の外来を中心としたメディカルセンターを整備することとして実施設計に着手し、歯学部B棟の改修工事と隣接する日赤支部・乳児院移転跡地の用地取得手続を併行して進める。

これらの事業遂行には多額の資金を要するため、最大の収入源である医療収入の増収と経常経費の節減、入学定員の確保等の経営努力を行い、経営基盤の強化に努める。更に、社会情勢を慎重に見極めながら、各種補助金の活用や借入も含めた長期的な資金計画を策定することとする。

以上の方針に基づき、平成26年度は次の重点事業を実施する。

2. 主要な事業計画

(1) 総合移転整備計画関係

- ① 附属病院移転及び内丸メディカルセンター（仮称）整備計画の推進
- ② 附属病院移転用地（C敷地）に係る土地造成工事の推進
- ③ 新病院エネルギーセンター先行整備計画の推進
- ④ 県立療育センター及び県立盛岡となん支援学校の施設整備に係る推進
- ⑤ 日赤岩手乳児院及び日赤岩手県支部の敷地取得に向けた取組
- ⑥ 矢巾キャンパス緑化事業の推進

(2) 教育・研究関係

- ① 医師国家試験・歯科医師国家試験・薬剤師国家試験の合格率向上対策
- ② 第34回国内医科大学視察と討論の会の共催
- ③ 医・歯・薬三学部の研究連携を推進
- ④ 各種教育研究プロジェクトの推進
- ⑤ 広汎で持続的な就職支援の展開
- ⑥ 医療専門学校の入学生の確保

- ⑦ 医療専門学校为国家試験合格率の高位維持
- ⑧ 歯科技工学科の移設

(3) 補助事業及び委託事業関係

- ① 私立大学等研究設備整備費等補助金による機器更新
- ② 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進
- ③ 次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム
- ④ オーダーメイド医療実現化プロジェクト(第Ⅲ期)
- ⑤ 次世代がん研究戦略推進プロジェクト
- ⑥ 革新的医療機器等開発事業
- ⑦ がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
- ⑧ 災害時地域医療支援教育センター事業
- ⑨ 災害時実践力強化事業
- ⑩ 岩手県こころのケアセンター運営事業
- ⑪ いわてこどもケアセンター運営事業
- ⑫ 岩手県ドクターヘリ導入促進事業
- ⑬ 東北メディカル・メガバンク事業

(4) 医療関係

- ① 患者確保に向けた病院運営体制の整備
- ② 経費の節減を行う組織体制の整備(経費節減プロジェクトの実施検討)
- ③ 臨床研究支援センターの整備

- ④ 10号館地下脳血流測定室のデジタルガンマカメラシステム更新
- ⑤ 中央臨床検査部改修工事
- ⑥ 循環器医療センター5階ICU増床拡充工事
- ⑦ 眼科診察室改修工事
- ⑧ 呼吸同期PET/CTによる診断精度の向上

(5) 管理運営関係

- ① 健康管理システムの更新

(6) 施設設備関係

- ① 高度救命救急センター及び東病棟の外壁修繕
- ② 6号館ボイラー室の不活性ガス消火設備貯蔵容器更新工事
- ③ CVCF設備バッテリー更新工事
- ④ 矢巾キャンパス図書館分館の図書落下防止対策
- ⑤ 矢巾キャンパス図書館分館閲覧室の開口部新設修繕工事
- ⑥ 矢巾キャンパス学生クラブ活動施設等整備事業

※掲載内容は、平成26年度事業計画書より抜粋したものです。詳細は、平成26年度 事業計画書及び本学ホームページ「情報公開」をご参照ください。

～お知らせ～

この度、学校法人岩手医科大学並びに学校法人岩手女子奨学会は、学校法人岩手女子奨学会が設置する岩手看護短期大学の経営を学校法人岩手医科大学に移管することについて合意に至り、今後設置者変更に向けて手続きを進めることとなりました。

また、これに併せて、岩手医科大学に当該短期大学を母体とした4年制看護学部を設置する準備も進めていくことを決定しました。

【今後の予定】

- 平成27年 岩手看護短期大学の設置者変更認可申請
- 平成28年 学校法人岩手医科大学に岩手看護短期大学設置、看護学部設置認可申請
- 平成29年 看護学部新設

専門・認定看護師の当院の現状

平成9年に県内初の認定看護師が当院から誕生して以来、毎年、2～3名が教育課程を受講し、現在15分野25名の認定看護師が活躍しています。さらに、専門看護師も2分野3名が誕生しました。自部署の看護の質向上はもちろん、分野に特化した知識・技術を他部署にも出向き実践・指導・相談に応じることで、院内の看護レベルの底上げになっています。また、感染対策や褥瘡対策、緩和ケアなどの専任・専従の認定看護師の他にも、呼吸ケアサポートチーム（RST）や栄養サポートチーム（NST）の一員として、自部署での活動以外にも活躍する認定看護師が増え、チーム医療を推進するうえで重要な役割を担い診療報酬にもつなげることができております。さらに、平成24年には看護外来が開設され、外来患者さんやご家族の療養生活上の問題についてケアを提供し、QOLを高められるような支援を行っています。

今回は、がん放射線療法看護認定看護師と摂食・嚥下障害看護認定看護師について紹介します。

● 専門看護師（2分野3名）

がん看護専門看護師（2名）	慢性疾患看護専門看護師（1名）
---------------	-----------------

● 認定看護師（15分野25名）

救急看護（3名）	集中ケア（3名）	がん化学療法看護（3名）
緩和ケア（3名）	新生児集中ケア（2名）	皮膚・排泄ケア（2名）
手術看護（1名）	乳がん看護（1名）	がん性疼痛看護（1名）
がん放射線療法看護（1名）	感染管理（1名）	摂食・嚥下障害看護（1名）
糖尿病看護（1名）	認知症看護（1名）	慢性心不全看護（1名）

1. がん放射線療法看護認定看護師

放射線診断科・放射線治療科外来 下田 弥生

《放射線治療の現状と認定看護師の役割》

私は、平成23年にがん放射線療法看護認定看護師の資格を取得し、耳鼻咽喉科・頭頸部外科病棟の勤務を経て、現在は放射線診断科・放射線治療科外来に勤務しています。当院で放射線治療を受ける患者数は年々増加しています。また、近年の放射線治療は、高精度の治療装置と技術の向上により、手術や化学療法が困難な患者さんにおいても治療が行なえるという利点があり、放射線治療の進歩は著しいものがあります。その中でがん放射線療法看護認定看護師は、治療の過程で生じる患者さんとその家族の身体・心理・社会的問題をアセスメントしながら有害事象を効果的に予防・緩和し、QOLを低下させることなく安全・安楽に治療ができるように看護を提供することが役割です。



《放射線治療を受ける患者のケア》

放射線治療は、治療を重ねるごとに出現する急性期有害事象に耐えながら治療の完遂を目標とする支援と、さらに治療後の晩期有害事象についての支援が必要となります。そこで他職種と連携を取りながら、治療前から治療終了後まで、切れ目のない支援ができる体制を整えていくことが必要です。そして、治療後も有害事象に苦しむ患者さんに対して、いつでも相談に対応すること、つまり安心して日常生活を送ることができるように外来において長

期的にサポートできる体制を整えています。

患者さんは放射線治療に対して漠然とした不安を抱えています。また、治療期間中は有害事象の出現と増強する苦痛に「治療を続けることがつらい」と苦悩される患者さんが多くいます。放射線治療は継続して行なうことで治療効果を発揮します。したがって、治療前から、患者さんのライフスタイルや年齢などに合わせて日常生活のセルフケアの指導を個別的行なっています。例えば、放射線性皮膚炎の説明において、なぜ皮膚炎が起きるのか、どのような症状でいつ出現するのか、など具体的に説明してさらに患者さんと家族にケアの方法を指導しています。

〈院内外の活動〉

院内においては、病棟の勉強会やがん看護分野の認定看護師と共に院内研修の企画・運営を行っています。また毎週水曜日の午後には、放射線科外来だけではなくPET・リニアック先端医療センターや「がんサロン」で治療を受ける患者さんの不安への介入や皮膚炎・口腔粘膜炎に関する相談を受け、ケアの方法を提案し治療が完遂できるように支援しています。院外では、他院から依頼を受け勉強会の講師や岩手県看護協会主催のがん看護研修で、放射線治療の看護について講師を担当しています。

今後、放射線療法看護の知識と新しいケア方法の周知に向けて認定看護師として関わっていきたいと思います。ご指導、よろしくお願いいたします。

2. 摂食・嚥下障害看護認定看護師

中6階 柿澤良江

〈摂食・嚥下障害患者に対する認定看護師の役割〉

高齢社会である現在、今後何らかの疾病に罹患し、口から食べることが困難になる患者さんの増加が予測されます。平成26年の診療報酬改定でも「胃瘻造設術、胃瘻造設時嚥下機能評価加算」として適切な嚥下機能検査に係る評価が新設されました。また、「経口摂取回復促進加算」として摂食機能療法の評価の見直しを行う等、「食べる」ことへの重要性が求められています。口から食べることは生きていくための手段でもあります。生活していく上での楽しみ、希望でもあります。その機能が失われると、食べる楽しみや生きがいの喪失に繋がりがやすく、QOLが大きく低下します。さらに誤嚥性肺炎を併発すると命の危険に関わります。こうした意味でも、摂食・嚥下の領域は重要な位置を占めていると考えます。

摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割として、摂食・嚥下障害の病態をアセスメントし、フィジカルアセスメントの結果を踏まえた嚥下機能の評価があります。その結果を踏まえて個人にあった適切な嚥下訓練や食事形態の選択、食事介助方法のプランを立案し、患者さん・ご家族に指導を行います。さらに、低栄養や脱水、窒息、誤嚥性肺炎などの二次的障害を予防し、摂食・嚥下障害の悪化を防止するなどのリスク管理も役割として挙げられます。専門的な知識・技術を提供し、患者さんが口から食事ができたときの「おいしい」という言葉と笑顔は何度経験しても新鮮な嬉しさがあります。どんなに難しい症例であっても、これから出会うすべての患者さんが、「食べる」という行為の機能回復を図ることができ、「食べられる」という楽しみや生きがいを抱き続けることができるように関わっていきたいと考えています。そのためには、他職種と連携を図りながら、「食べたい」と願う患者さん・ご家族の気持ちに応えられるよう努めていきたいと思っています。

〈院内外の活動〉

現在は、NSTのコアメンバーとして栄養状態をアセスメントし、介入方法を提言しています。「食べる」ということは栄養を得るための手段でもあります。また、「食べる」ためには、食べることを支える筋力を維持する「栄養」が必要です。そのため、再び「食べられる」ようになるための栄養の評価という視点も大切にしています。また、平成25年度厚生労働科学研究事業「高齢脳卒中患者をモデルとした栄養管理と摂食機能訓練に関するアルゴリズムの開発、および経口摂取状態の改善効果の検証」の研究を医師と共にさせていただいています。

まだまだですが、今後も「すべての人に口から食べるチャンス」を目標に、看護の質向上に貢献できるように努力していきたいと思いますのでよろしくお願い致します。



名誉教授称号授与式が行われました

平成26年度の名誉教授称号授与式が、4月1日（火）午前11時から創立60周年記念館理事長室において行われました。

式では、小川理事長が一人ひとりに名誉教授の称号を授与し、これまでの大学貢献に対して感謝の言葉を述べました。



称号を授与される藤岡名誉教授

◆名誉教授称号授与者（平成26年4月1日付）

小川 彰（前 脳神経外科学講座教授）

佐藤 成大（前 微生物学講座感染症学・免疫学分野教授）

藤岡 知昭（前 泌尿器科学講座教授）

平成26年度新入職員辞令交付式が行われました



本法人の平成26年度新採用者に対する辞令交付式が、4月1日（火）午前9時30分から歯学部棟4階講堂において行われ、採用者227名が辞令書の交付を受けました。

式典では、新入職員の呼名の後、新入職員を代表して内科学講座消化器内科消化管分野助教の梁井俊一さん（左写真）が辞令を受けました。その後は小川理事長の式辞に続いて、西3階看護師の古川愛さんが誓詞を述べました。

辞令交付式後は、職種ごとに分かれてのオリエンテーションが行われ、新入職員の皆さんは真剣な眼差しで参加していました。

◆採用者内訳は次のとおりです

助教20名、専門研修医17名、臨床研修医6名、臨床研修歯科医29名、事務員14名、薬剤師14名、臨床検査技師6名、診療放射線技師4名、理学療法士1名、作業療法士1名、臨床心理士2名、視能訓練士1名、臨床工学技士2名、歯科衛生士7名、技術員補1名、写真技術員1名、栄養士1名、看護師97名、GMRC（ゲノム・メディカル・リサーチ・コーディネーター）2名、システムエンジニア1名

平成26年度入学式を挙行了しました

岩手医科大学の入学式が、4月9日（水）午前10時から岩手県民会館大ホールで行われました。今年度の入学生は、大学院医学研究科博士課程36名・修士課程3名、歯学研究科博士課程11名、薬学研究科博士課程5名、医学部123名・3年次編入学7名、歯学部51名・2年次編入学4名、薬学部190名でした。

岩手医科大学医療専門学校入学式は、4月5日（土）午前10時から歯学部4階講堂で行われ、歯科技工学科11名、歯科衛生学科37名の入学生を迎えました。



岩手医科大学入学式



岩手医科大学医療専門学校入学式

3 学部合同セミナーが行われました

4月12日（土）から2日間にわたり、八幡平市安比高原のホテル安比グランドにおいて平成26年度3学部合同学生セミナーが行われました。

このセミナーは、医・歯・薬学部生が連携し学部の垣根を越えて学ぶ大切さを体験しようと昨年度から行われているもので、今年で3回目の開催となりました。

3学部の6学年各20名が各学部混成のグループに分かれて症例テーマの病態・治療法・薬の処方などを討議しました。また、教員も交えて医学・歯学・薬学の知を結集した討論や発表が行われ、医師・歯科医師・薬剤師によるチーム医療の意義について確認しました。



矢巾キャンパス弓道場「彰誠館」竣工式および道場開きが行われました

矢巾キャンパスB敷地に、かねてより建設を進めてた新弓道場が、このほど3月28日（金）に竣工の運びとなりました。同日午前10時より新弓道場敷地内において竣工式が行われ、小川理事長・赤坂学生部長をはじめとした大学関係者、中村元行弓道部長（内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野教授）、湊修嗣弓道部OB会長（医学部21期）、弓道部員らが出席し、テープカットが行われました。

また、4月26日（土）午後1時30分より道場開きが行われ、小川理事長・赤坂学生部長・中村部長・湊会長の他、戸羽久之岩手県弓道連盟会長が出席し、厳かな雰囲気の中、滞りなく神事が執り行われました。

【執り行われた神事】

安土固めの儀（的を置かない的場の安土に向かって矢を射る）、巻藁謝礼（的場中央に置かれた巻藁に矢を射る）矢渡し（安土に置かれた的に向かって矢を射る）、祝射（5人並び上手から順番に矢を射る）、納射（締め括りに矢を射る）



竣工式

（写真左より：湊OB会長、小川理事長、赤坂学生部長、中村部長）



道場開き（矢渡しの様子）

矢巾キャンパスで「鉄神ガンライザー」の収録が行われました

4月21日（月）・5月1日（木）に矢巾キャンパスにおいて、テレビ岩手で放送されている「鉄神ガンライザー」の収録が行われました。今回は、今年新たに「鉄神ガンライザー NEO」の製作が決定したことに伴い行われたものです。

矢巾キャンパスモールや腫瘍生物学研究部門などを舞台に、迫力ある戦闘シーンなどの撮影が行われました。



今回は残念ながらガンライザーの登場はありませんでしたが、ガンライザーに変身前の主人公やヒロインが登場しました。放送は、8月24日（日）と10月5日（日）の予定です。矢巾キャンパスが映るシーンに注目して「鉄神ガンライザー NEO」の放送を楽しみにしてはいかがでしょうか。



新任教授の紹介

掲載項目は先生に回答いただいたものです。なお、②のタイトルが英文の場合は和訳して掲載しています。

統合基礎講座 解剖学講座細胞生物学分野

齋野 朝幸 (さいの ともゆき)

昭和42年2月28日
北海道紋別郡遠軽町生まれ



①研究テーマ

- ・カルシウムイメージング法を用いた細胞内カルシウム動態の解析

②主な著書論文

- ・精巣と脳の細胞内Ca²⁺動態によるATP受容体の比較 (Cell Calcium 32:155-165, 2002)
- ・ジピリダモールはラット精巣細胞内Ca²⁺流入を阻害する (Arch Histol Cytol 71:235-247, 2008)
- ・セリン/スレオニンフォスターゼの抑制はプロテインキナーゼAを介してアラキドン酸誘発性細胞内Ca²⁺上昇を増強する (Am J Physiol Cell Physiol. 296:C88-C96, 2009)

③趣味・特技

- ・万年筆などの収集、日本酒（特に鷺の尾）

④自己PR

この度、4月1日付で解剖学講座細胞生物学分野教授に就任いたしました。盛岡市は今までの人生の中で一番長く住んでいる町となりました。平成20年の3月から岩手医科大学報の編集委員を務めており、日頃から皆様方には大変お世話になっております。今後研究のみならず教育におきましても、自らの果たすべき役割をきちんと認識しつつ、他講座・他学部の先生方と互いに協力することによって、本学のさらなる発展のため微力ながら全力を尽くしたいと考えております。今後とも皆様方のさらなるご指導・ご鞭撻・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

⑤経歴

平成3年 旭川医科大学医学部医学科 卒業
旭川医科大学医学部附属病院小児科研修医
北海道社会事業協会富良野病院小児科医
旭川医科大学大学院医学研究科 卒業
平成10年 岩手医科大学医学部解剖学第二講座助手
ワシントン大学（シアトル）歯学部口腔生物学講座 客員研究員
平成16年 岩手医科大学医学部解剖学第二講座助教授
平成18年 岩手医科大学医学部解剖学第二講座助教授
平成21年 岩手医科大学医学部解剖学細胞生物学分野准教授
平成26年4月 現職

薬学部 有機合成化学講座

河野 富一 (かわの とみかず)

昭和42年11月24日
大阪府八尾市生まれ



①研究テーマ

- ・加齢に伴う難治性疾患治療薬の開発（創薬有機化学）
- ・有機低分子による蛋白質-蛋白質相互作用の制御（ケミカルバイオロジー）
- ・生体分子を模倣した新規機能性分子の創製と合成法開発（有機反応化学）

②主な著書論文

- ・マイクロ波を利用する多置換ナフト [2,3-c] フラ-1,3-ジオン誘導体の新規合成法 (Heterocycles, 2012, 85, 861-869.)
- ・生合成遺伝子に基づく二次代謝産物スクリーニング：モモ枝折病菌から新規テルペン、ホモブセノン酸メチル (J Org Chem., 2009, 74, 1541-1548.)
- ・銅イオンを媒介とするオリゴ(2-エチニルピリジン)から三重らせん超分子構造体への自己集合 (Bull Chem Soc Jpn., 2003, 76, 709-719.)

③趣味・特技

- ・スポーツ観戦（特に、野球）

④自己PR

目に見えない有機低分子が薬として働くこと、患者さんの病を治したり、あるいは健康を維持したりすることができます。有機化学の側面から医療に貢献することに魅力を感じ、これまで、創薬を中心とした有機合成研究をおこなってきました。当講座は薬学部にはしかない講座ですが、学部間に垣根のない本学の特徴を生かし、今後は、薬学部のみならず他学部、また基礎系のみならず臨床系の先生方とも積極的に研究交流したいと思っておりますので、何卒よろしくご厚意申し上げます。

⑤経歴

平成3年 大阪大学理学部 卒業
平成8年 大阪大学大学院理学研究科 博士後期課程 修了
大阪大学産業科学研究所 合成医薬品研究分野（現 医薬品化学研究分野） 助手
平成16年 文部科学省在外研究員（米国 Pacific Northwest Research Institute <現 Pacific Northwest Diabetes Research Institute>）
平成19年 岩手医科大学薬学部 有機合成化学講座 准教授
平成26年4月 現職

薬学部 薬剤治療学講座

三部 篤 (さんべ あつし)

昭和41年11月7日
山形県上山市生まれ



①研究テーマ

- ・遺伝子改変マウスを用いた循環器疾患、神経筋疾患および感覚器疾患の病態解明と新規治療法の開発

②主な著書論文

- ・心筋特異的低分子ストレスタンパク質HSPB8 K141N点変異体過剰発現マウスの表現型解析 (J. Biol. Chem. 288: 8910-8921, 2013)
- ・JNK脱リン酸化を介する無機リン酸ピロホスファターゼ1の神経突起伸張制御機構 (PloS One 8: e61649, 2013)
- ・低分子ストレスタンパク質HSPB5 R120G点変異体過剰発現心筋症マウスの心筋症病態に対するミトコンドリアATP感受性カリウムチャンネル開口作用を介したニコランジルの保護効果 (PloS One 6:e18922, 2011)

③趣味・特技

- ・食べ歩き

④自己PR

少子高齢化が更に進む日本では、地域に根ざした地域医療が重要であると考えられます。地域医療の中で、薬剤師が果たすべき役割は多岐にわたります。そのため、実際に医療現場で機能でき、かつ生体機能や疾患についても熟知し、北東北の医療に貢献できる薬剤師を1人でも多く育成していきたいと思っております。何卒よろしくご厚意申し上げます。

⑤経歴

平成2年 東京薬科大学薬学部 卒業
平成7年 東京薬科大学大学院薬学研究科博士課程 修了
田辺製薬株式会社 研究員
平成9年 シンシナティ小児病院 研究員
平成14年 シンシナティ大 / シンシナティ小児病院 インストラクター
平成16年 シンシナティ大 / シンシナティ小児病院 アシスタントプロフェッサー
平成17年 国立成育医療センター 研究所薬剤治療研究部 実験薬理室 室長
平成22年 岩手医科大学薬学部薬剤治療学講座 特任教授
平成26年4月 現職

表彰の栄誉

三浦 頌太 診療放射線技師が 日本放射線技術学会で技術新人賞を受賞しました

中央放射線部の三浦頌太診療放射線技師が、4月10日～13日に横浜で開催された日本放射線技術学会において、技術新人賞を受賞いたしました。

受賞を受けた発表は「FDG-PETにおける True Count Rate 実測による収集時間の決定方法」です。この賞は35歳以下で研究発表等の顕著な功績を残し、またその研究奨励が期待される会員に贈られます。

技術新人賞を含む学会表彰は、「表彰に関する規定」に則り、専門分科会の推薦を受け、表彰委員会で審議され、理事会で承認されます。

技術新人賞の対象は、画像、核医学、治療、撮影、計測、防護、医療情報ならびに医療技術全般の各専門技術分野ごとに同分野における学術大会研究発表などで研究奨励が期待される満35歳以下の正会員となっており、各専門技術分野ごとの論文などの学会誌・英語論文誌・分科会誌掲載者または、各専門技術分野ごとの研究活動が期待できる者が推薦されます。

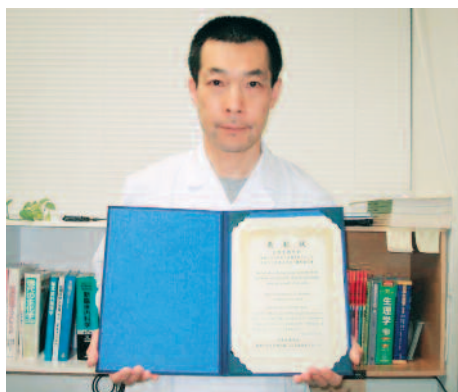


(文責 中央放射線部 佐々木 忠司)

生理学講座統合生理学分野 中村 一芳 講師が 平成25年度日本生理学会 JPS 優秀論文賞を受賞しました

この度、第91回日本生理学会大会（平成26年3月16-18日、鹿児島市）において、平成25年度日本生理学会 JPS 優秀論文賞（細胞と分子生理/上皮膜研究部門）を受賞いたしました。

受賞論文のタイトルは「Interleukin-1 β suppresses activity of an inwardly rectifying K⁺ channel in human renal proximal tubule cells.」で、「The Journal of Physiological Sciences 63: 377-387, 2013」に掲載されております。



今回受賞の研究では、これまで詳細が不明であった“ヒト腎近位尿細管細胞のK⁺チャネル活性に対する炎症性サイトカインの作用”に関して、IL-1 β がCキナーゼ経路を介してK⁺チャネル活性を抑制することを明らかにし、この作用が腎炎症性疾患時の尿細管細胞傷害に関わっている可能性を示しました。今後は他の炎症性サイトカインについての検討も進め、腎尿細管細胞傷害の病態生理解明に寄与していきたいと存じます。

(文責：中村 一芳)

— 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活潑な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品（写真、俳句、絵画など）、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。（原稿字数 500字～1,000字程度）

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

【連絡先】

大学報事務局（企画部企画調整課）

内線 7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

理事会報告

■ 3月定例（3月24日開催）

1. 平成25年度補正予算について
2. 平成26年度事業計画について
3. 平成26年度予算について
4. 創立年の取扱及び記念事業について
これまで昭和3年の岩手医学専門学校設立認可をもってあててきた本法人の創立年については、明治30年4月20日に私立岩手病院を開設した際に医学講習所が併置され、医師養成にあっていたことが確認されたことを踏まえ、創立年を明治30年に改め、総合移転整備計画事業も包括した創立120周年記念事業を実施することについて承認
5. 前九年土地の売却について
本法人所有の前九年三丁目土地について、約半分を学校法人岩手橘学園に売却することについて承認
6. 評議員の選任について
第3号評議員（新任） 佐藤 洋一
（任期 平成26年4月1日から平成28年3月31日）
7. 役職者の選任について
総合情報センター副センター長（新任） 田中 良一
（任期 平成26年4月1日から平成28年3月31日）
いわて東北メディカル・メガバンク副機構副機構長（新任）
小笠原邦昭
（任期 平成26年4月1日から平成27年12月31日）

- いわて東北メディカル・メガバンク副機構副機構長（新任）
中村 元行
（任期 平成26年4月1日から平成27年12月31日）
8. 内部監査室長の選任について
内部監査室長 門口 正雄
（委嘱期間 平成26年4月1日から平成27年3月31日）
 9. 教育職員の人事について
統合基礎講座解剖学講座細胞生物学分野
教授 齋野朝幸（前 准教授）
医学部脳神経外科学講座 准教授 久保慶高（前 講師）
医学部外科学講座 特任准教授 肥田圭介（前 講師）
医学部脳神経外科学講座 特任准教授 和田 司（前 講師）
（発令年月日 平成26年4月1日）
 11. 講座等の再編に伴う組織規程等の一部改正について
先進機能病理学分野と病理病態学分野を統合し機能病態学分野とするとともに、分子診断病理学分野を臨床講座に移行し、病理診断学講座とすること、口腔保健育成学講座内の小児歯科学分野と障害者歯科学分野を統合し小児歯科学・障害者歯科学分野とするとともに、歯科医療センター診療科の小児歯科と障がい者歯科を統合し小児歯科・障がい者歯科とすることに伴う、組織規程組織機構図別表並び教育職員の定員に関する規程別表を一部改正
（施行年月日 平成26年4月1日）

夏にむけて日照時間が長くなってまいりました。盛岡の一番早い日の出時刻は4時7分です。FIFAワールドカップ、サッカー日本代表戦はこの日の出時刻より遅く始まります。なでしこジャパンがアジアで初めて優勝トロフィーを手にしたので、次はザックジャパンに優勝トロフィーを手にしてもらいたいです。早起きは三文の徳、という諺にならない、早起きをしてサッカー観戦に興じてみてはいかがでしょうか？

(編集委員 下山 佑)

岩手医科大学報 第452号

発行年月日 平成26年5月30日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか

スポット歯学講座

No. 21

口腔医学講座予防歯科学分野

准教授 稲葉 大輔



予防歯科・口腔ケア外来について

予防歯科学分野では「健康」と「予防」をキーワードに様々な教育・診療・研究を行っています。今回は、職員の皆様の健康に直結する診療業務を中心に活動を紹介します。

当分野の担当部署は「予防歯科・口腔ケア外来」で、予防歯科外来、口腔ケア外来、口臭外来ならびに周術期口腔管理の業務を行っています。予防歯科外来は従来より受診者の予防管理を歯科医師中心に行ってきましたが、口腔ケア外来は、歯科衛生士が本来の業務である口腔衛生管理を主体的に行うために2012年に設置された専門外来です。ここでは、各科で治療が終わった方を対象に、担当の歯科衛生士を決め定期的に清掃指導やクリーニング等のメンテナンスを行っています。

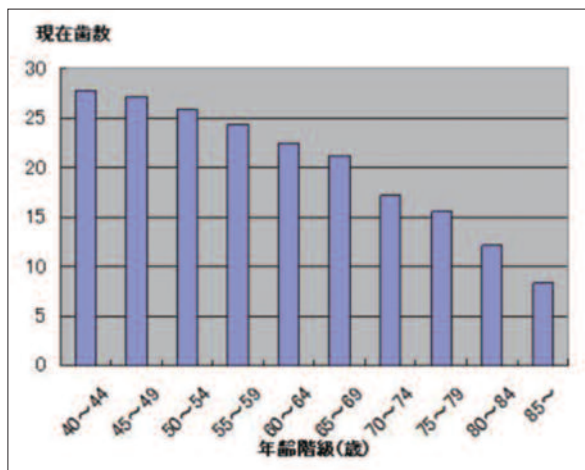
口臭外来は、口臭に悩む方のための専門外来で、歯科医師が問診、口臭検査やカウンセリング、治療、等により、口臭の改善を支援しています。口臭の9割は口腔由来とされており、お悩みの方は歯科医療センターへご相談ください。

周術期口腔機能管理は、全身麻酔での手術や化学療法、放射線治療などを受ける方の口腔内の環境を、治療前から管理することにより、誤嚥性肺炎や口腔粘膜炎などの合併症を予防することを目的としており、がん治療などを実施する医師および関連チームと連携し、術前・術後の包括的な口腔ケアを歯科衛生士とともに実施しています。

ところで、メンテナンスはなぜ重要なのでし

ょうか。その理由は、国民の96%が毎日歯磨きをしていながら、う蝕がない人はごく稀で、中高年の80%以上に歯周病があり、その結果、残存歯数は60代前半で平均22.2歯に、そして80代前半では11歯にまで減ることが物語っています（図参照）。

う蝕と歯周病の原因は歯垢（プラーク）ですが、以上の数字は、自分で歯磨きをしていても歯垢は取りきれず、歯の喪失につながる病気になることを示唆しています。職員の皆様には症状がなくても、ご自身の歯を生涯守るため、定期的なチェックと専門的な歯のクリーニング（PMTC）を受けるようお勧めします。院内では歯科衛生士が対応する口腔ケア外来をどうぞお気軽にご利用ください。



1人平均現在歯数（平成23年歯科疾患実態調査）

第121回大学報編集委員会

日 時：平成26年5月23日（金） 午後4時～午後5時

出席委員：影山 雄太、齋野 朝幸、佐藤 仁、下山 佑、山尾 寿子、菊池 初子、佐々木 さき子、米澤 裕司、佐々木 忠司、畠山 正充、藤村 尚子、武藤 千恵子